

北九州憲法ネットニュース

発行 9条の会・北九州憲法ネット 2016年12月6日 第90号
 TEL592-5000 fax 571-4346
 803-0817 北九州市小倉北区田町13番21号田町ビル3F
 URL⇒<http://kitaq-kenpou.net/>

第9条

戦争の放棄、戦力の不保持、交戦権の否認

日本国民は正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

② 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

9条の会・北九州憲法ネット総会に110名が参加 “くらし総がかり！”を訴え—渡辺治憲法講演会—

14時00分、後藤弁護士が開会挨拶して、9条の会・北九州憲法ネット総会が始まりました。主催者挨拶を荒牧座長、議案提案を三輪副座長が行い、市内各9条の会の紹介に移りました。時間の都合上、総会資料に掲載されている、9条の会の名前を読みあげ、その場で、関係者が起立し、会場から拍手を受ける方式で進行。代表して、キリスト者9条の会の憲法コントが上演されました。今回のコントは、日本国憲法を捨てようとする話。代わりの自民党改憲草案と比較してみることで、今の憲法の大事さを改めて気づくというコント。会場から喝采を受けていました。



2時間もの講演

記念講演は、渡辺治氏。「安倍政権による改憲の危機と運動の課題」と題して、2時間話し続けました。熱の入った話が続き、会場からの質問の時間が取れない状況でした。

渡辺治氏の話は、もちろん戦争法反対の動きから始まります。

昨年9月19日、安全保障法制=戦争法が成立しました。しかし、自民・公明のあまりにもひどい強行採決ぶりもあり、全国で、大きな反対運動が広がり、最終盤の国会前は、抗議の人波があふれました。戦争法成立後も、全国各地で、戦争法廃止の2000万署名が取り組まれ、反対運動は消えることなく、現在も続いています。

民意の動きに危機感を持った安倍政権は、参院選挙前は、戦争法の発動は避け、選挙後の9月に行いました。選挙中には、改憲の具体化は問わず、またも「アベノミクス」で庶民を吊り上げ、勝利しました。

渡辺治氏は、安倍政権が参院選で勝ったのは、「仕方なしの支持」だといいます。アベノミクスの第2の矢の財政出動依存や期待で、疲弊した地域の住民の支持を吊り上げる「蜘蛛の糸」作戦。大都市部では、富裕層、大企業管理職、正規従業員などが集中する、東京都市部、埼玉、神奈川などで支持を集めました。しかし、大栗田東北地方の1人区で、21勝11敗となりました。前回の参院選挙では29勝しているのです。

なぜ11敗したか？

野党共闘の候補者に競り負けしたのです。野党共闘は簡単にはできません。この背後には、戦争法案反対の野党の共同闘争があったからできたのです。戦争法案反対の運動の共同の中でできた信頼関係が選挙での共同へ発展したのです。野党共闘が勝利した青森県でみると、今まで、9割が保守、1割が社民・共産に投票する地域でした。

今回は、野党共闘候補へ、無党派層の65%、自民支持の15%、公明支持の24%、大阪維新支持の62%が投票した(出口調査)と言います。この背景には、青森の9条の会などの地道な草の根の活動があります。

今後の方向は

安倍政権を倒すことなしに、憲法9条の危機は続きます。国会議席の3分の2を維持した状況を打破するのは、選挙で彼らを落とすこと、そのためには、野党共闘の方向しかありません。現在のまま、候補者をひとりにしての共闘ができれば、60選挙区で、自民党は議席を失います。選挙協定が実現すれば、127の選挙区で自民党は敗れると予想されます。

従って、自民党の戦術は、野党共闘を作らせないことで、今後深くうごめいてくるでしょう。民進党を、共産・社民から離す作戦がされるでしょう。すでに財界は、資金の絞り込みで、民進党を揺さぶり始めています。米国の圧力も始まるでしょう。

私たちの課題—暮らし総がかりへ

野党共闘を成功させることです。これまで、政党が手を結ぶための努力が様々な形でされてきました。「総がかり行動」で、労組や市民団体が、政党を巻き込む形で、統一の行動を繰り広げ、成功してきました。今後もこの方向がなされるでしょうが、中核となる庶民の動きを集めることが必要です。「憲法の実質改悪である戦争法発動阻止、廃止の闘いに全力をあげるとともに、沖縄辺野古、高江の基地建設阻止、原発再稼働反対、軍事費削減、TPP 反対、暮らし・福祉を守れ・・・など、アベノミックスに代わる共同、暮らし総がかりの



戦線を造り上げる努力こそが安倍政権を倒すことになる」と渡辺治氏は講演を結びました。

渡辺治先生が質問に回答

講演会では、質問時間が取れないため、アンケート用紙に書いて頂いた質問「次回選挙で暮らしの観点から、自民党の急所となりうる政治的争点は何でしょうか？」に、渡辺治先生がメールで回答を寄せてくれました。

回答「次回選挙というか、アベノミックスの新自由主義改革の焦点は、現役世代の雇用労働改革、残業代なし、保育所の規制緩和による民間の参入を促す改革、最低賃金、非正規の固定化、中高年には、年金のマクロスライド、介護、医療の削減・切り込み、全体としてアベノミックスによる大企業の負担軽減のための、国民生活の安心のためのインフラの削減が焦点だと思います。現役世代も、シルバー世代も、アベノミックスで、より一層厳しい環境で競争に追い込まれるのか、それとも現役、シルバー問わず安心してらせる福祉社会をつくるのか、が争点だと思います。野党の側は、福祉充実の財源問題も含めた、対案が必要です。

おりお九条の会が総会開催

一人ひとりが考えることが大切！自分はどんな国に住みたいかを

去る10月29日、「憲法九条を守る折尾の会」の第8回総会を開催しました。参加者は25名と少なかったものの、その内容は濃く、得るものが多くありました。

総会は式次第に沿ってスムーズに進みました。

竹下代表や来賓ご挨拶の中で触れられたのは、「核兵器禁止条約制定目指す決議案」に日本が反対したということでした。世界で唯一の被爆国である日本がなぜという、批判の声が上がっており、大変恥ずかしいことだと話されました。10月2



7日、核兵器を法的に禁止する初めての条約の制定を目指す国連総会の第一委員会で採決が行われました。採決の結果、賛成123、反対38、棄権16の賛成多数で採択されました。

本城・赤坂九条の会の山本さんは、記念講演講師の三輪さんと共に、「憲法九条の歌」を熱唱されました。いつか総会開会時、参加者全員で歌えるようになればいいなと思いました。最後に、「憲法九条を守る折尾の会」の今年の活動報告(会計報告を含む)と今後の行動計画もすんなり承認されました。「毎月第4金曜日の折尾4丁目交差点での街頭宣伝にぜひご協力を」と訴えました。総会后何人かの方に、出来る時には参加するね、と嬉しい言葉をかけていただきました。

初めての試みでしたが、記念講演に先立って、キリスト者九条の会・北九州の「九条守りたい」によって、平和コトが上演されました。「日本国憲法」と「自民党憲法草案」について、「九条守りたい」の女性たちの熱演も相まって二つの大きな違いが胸にすんと落ちました。三輪さんから、ご講演のはじめに「私が話すことがなくなった」と最上のお褒めの言葉をいただきました。

記念講演は、「改憲を狙う安倍政権にどう対処するか」と題して9条の会・北九州憲法ネット副代表の三輪俊和さんが講演されました。

安倍政権は「戦後レジームの解体」を目指し、

日本国憲法とは真逆の憲法に改悪しようとしている。それは一途に「この国を軍事大国にし、戦争する国づくり(憲法九条改悪)」と「国民の平和的生存権の破壊(憲法25条解体)」に突き進む道である。選挙のたびに国民を欺き、「戦争法」を強行採決し、いよいよ戦争法の実施へと舵を切ってきた。しかしこれに黙っていない国民が増えてきている。北九州でも6月から立て続けに集会がもたれており、毎月19日の北九州市民集会は定着してきた。一人ひとりが主権者として、未来を切り拓くために、楽しい活動を工夫しながら実施している。

世界的にもヨーロッパ(EU)や南アメリカ各国は反新自由主義で一致、東アジア共同体構想(戦争はしない、平和と協力、対話による解決)も目指されている。

ここで三輪さんは一転、夢とロマンを語るとして「北欧の福祉社会に学ぶ」として特にフィンランドの教育に触れて話をすすめられ



ました。○教育、医療、福祉は無料

○競争をやめたて学力世界一 ○ゆとり教育と平等な教育 ○落ちこぼれを作らない(助け合い教育)。要するに民主主義社会を支える人材の育成に徹している。

私たちは一人ひとりがどんな国に住みたいか、自分の幸せとは何かを考えて、考えたことを口に出して皆にわかってもらう日々の努力が要るのではないかと、思われました。

衆院選に向け、「市民連合と野党の共闘」深化へ 市民連合が第3回全国市民意見交換会

安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合(市民連合)と総がかり行動実行委員

会は26日、市民と野党の共闘を深化させ、衆院選にむけた戦略をつくりあげようと、東京都

内で第3回全国市民意見交換会を開催しました。全国から約200人が参加しました。

開会あいさつした総がかり行動実行委の高田健氏は、「安倍政権に対抗する力強い勢力を私たちがつくりだすかどうかだ」と強調。参院選で32ある1人区で候補者の一本化をつくりあげてきたとのべ、「衆院選295の小選挙区でどう前進を勝ち取るのか、立憲4野党プラス市民の構図を全国につくりだし、安倍内閣の悪政を阻止しよう」とよびかけました。立憲デモクラシーの会の山口二郎氏（法政大学教授）が選挙戦の総括を報告。「米国大統領選の結果や、都知事選以降の小池知事の勢いなどを見ると、立憲野党が早く再配分も含む幾つかの共通政策を、市民も関わって確立する必要がある」と語りました。各地域からの報告で、「戦争させない市民の風・北海道」の代表は、北海道5区補選では地元で政党と市民も入った協議を進めたことで野党共闘が進んだと報告し、

衆院選の小選挙区ごとに選挙母体をつくる重要性を強調しました。「TeNネットワーク2016」（東京）の代表は、市民と野党をつなぐ市民の会の結成にむけた議論をすすめていると語りました。「市民連合みえ」の代表は「衆院選に向けて、小選挙区単位で市民の器になる場所をつくるべく動いている」と語り、また「新潟に新しいリーダーを誕生させる会」「自治体議員立憲ネットワーク」の各代表も野党との共闘の発展をめざす地域からの取り組みや、今後の課題などについて報告しました。「安全保障関連法に反対する学者の会」の中野晃一（上智大学教授）氏は、「この間のたたかいは無駄ではないし、いろんな基盤ができていっているところもある。今日、ここにいない人たちも巻き込んでいけるように言葉、見せ方、伝え方を工夫できるよう、情報を交換していきたい」と語りました。（憲法しんぶん速報版2016年11月30日(水)第694号から）

カンパありがとうございます。そして、お願い!

当会は、一貫して、憲法及び9条を学び、守り発展させるため、学習会や講演会、署名活動、街頭宣伝などの諸活動を行ってきました。ニュースの発行は、90号になりました。毎回700人の方にニュースをお送りしたり、手渡ししたりしています。その費用は、当会は会費がないのですべてカンパで賄っています。安倍政権の憲法破壊、立憲主義無視の暴走を阻止する戦いは山場です。しかし、当会の活動資金が枯渇しています。皆さんのお力で当会の活動を支えてください。

振替番号：01700-8-115768 名義：「九条の会・北九州憲法ネット」

カンパ 10月 浜口紀美子 江口道子 城下満 川辺希和子 黒坂佳男 江本信義 有馬正夫 有馬真弓 野瀬秀洋 吉永一平岡博 綾容子 南嘉久 須崎健一 尾鶴真 松涛秀道 近藤伊都子 川原巍誠 渡部満子 玉井史太郎 渡部末子 小沢和秋 佐多道人 後藤篤子 **11月** 安藤昭雄 阿部陽子 崎長節子 塩塚茂義 小川由美 竹下秀俊 山本知恵子 三浦仁士 諸岡昭三郎 荒牧啓一 小泉幸一 黒崎合同法律事務所 蓼沼法律事務所 北九州第一法律事務所 小倉東部総合法律事務所 野瀬秀洋 女性総合法律事務所ラレーヌビクトリア 山口司郎 内田ツナオ **メッセージ** ●二度と同じ過ちをしませんと広島市の平和公園で見ました！ 10/24 M. A ●ノーベル平和賞に憲法9条がノミネートされることを願ってやみません 10/24 M. A ●カンパとして 10/27 M. W ●前回から送金額をふやしたと思いますので、今月も引き続き同額を送ります。10/28 K. O ●安倍内閣の憲法改悪阻止しよう！ 10/28 S. W ●新潟県知事選圧勝を教訓としオール日本の実現に力を尽くしたいと思います 10/28 F. T ●頑張るキミに花束を！ 札東の方がいいなあと思う、自分がなさない今日この頃。11/7 U. O ●募金 11/9 H. T ●渡辺治講演会カンパ 11/15 K. A